



国際小児がんデー関連企画

オリンピック選手・パラリンピック選手トークイベント

国際小児がんデー（2月15日）にちなみ、小児がんなどの難しい病気の子もたちと、オリンピック・パラリンピック出場経験のあるトップアスリートらが交流するトークイベントが、2月13日にオンラインで行われました。（主催：毎日新聞社など）

フィギュアスケートの小塚崇彦さん、ソフトボールの馬淵智子さん、ノルディックスキー複合の荻原次晴さん、水泳の伊藤華英さん、パラ陸上競技の前川楓選手が出演しました。

小児がんを治療したり経験したりしている子どもたちやそのご家族、医療関係者ら約50人が参加。参加者がアスリートへ率直な質問を投げかけると、その一つ一つにオリンピック・パラリンピック経験などによる真摯な答えと、温かいアドバイスが送られました。



Q：頑張っているひとに頑張れと言うのも…。頑張っている時に負担にならず、元気が出るエールは？

⇒「〇〇（自分の名前）なら大丈夫だよ」と言ってもらえると、ちゃんと自分を見てくれている気がして嬉しい。
⇒「けがをしないでね」「全力を出し切ってね」という声かけは、自分のベストを尽くせばいいのだと安心できる。
⇒「気をつけてね」「いってらっしゃい」、これだけでいい。シンプルだけれど元気が出る。
⇒心に寄り添ってくれている「がんばれ」は、伝わる。



Q：思うような結果が出なかった時、どんな言葉なら受けとめられる？

⇒自分の悔しさに、「私もすごく悔しい」と共感してもらえた時は嬉しかった。
⇒「（今はうまくいなくても）もう一度小さな目標から始めてみたらいいよ」とのアドバイスはありがたかった。
⇒大きな声で「おかえりー！」と言ってもらえたら十分。

アドバイス「あきらめ悪くていいよ」

⇒アスリートというのはたいていあきらめが悪い。みんなもあきらめ悪くがんばってほしい。

アドバイス「未来への過程が大切」

⇒（事故や病気を経験して）「なんで自分が？」と思うのは悪いことではない。私もそう考えてつらかった。つらい気持ちをはき出して、たくさんの人を頼って、いっぱいいろんなことを経験してほしい。そして未来に向かってこうなりたい、と考えていく過程がすばらしい。

Q：陸上が好き。いつも走っている。でも、病気で左側が見えないためトラックのラインがわからない。誰かの後ろの時はついていけばいいけれど、僕は一番がいい！どうすればいいですか？

⇒右側にラインがある時はそれをガイドにすれば走りやすいかもしれない。トラックの線がない時は先生に線を引いてもらうといい。まわりの人を頼って、見える右目でどうしたらうまく走れるかをみんなといっしょに考えてみてください。

～お互いの「想い」をカに エール交換プロジェクト「ともに、かなえる」～

病気と闘う子どもたちと東京2020オリンピック・パラリンピックを目指す選手とのエール交換プロジェクト（主催：毎日新聞社、協力：JCCGなど）がスタートしています。卓球の伊藤美誠選手、バドミントンの奥原希望選手、陸上競技の山縣亮太選手ら多くのアスリートからのメッセージを読むことができ、選手らに応援メッセージを送ることもできます。詳しくは、プロジェクトサイトをご覧ください。

<https://mainichi.jp/tomonii/yell/>

プロジェクトサイトQRコード



JCCG事務局

〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目6番35号 WAKITA 名古屋ビル 8階

TEL：052-734-2182 FAX：052-734-2183 E-mail：friend@jccg.jp